

のを日に三つくりて、此むすめもてうりに出しけると見えたり、床机の義成べし、

〔甲陽軍鑑品第十下第三十三〕元永五月十五日に、兩大將御對面の時、筑摩川を隔て、兩方の川のはた

に床机を置、兩大將ながら馬めし、床机の際にて馬よりおり、互に御供は五人づゝ、あたりに人を拂てと定、其ごとくなされ、既に川端まで乗よせ、兩方馬よりおり給ふ時、景虎公手がるき大將な

れば、信玄公に手遅みられじと思召候故、早馬よりおりて、床机に腰を懸給ふ、信玄公をこにて馬、鬣を直すふりをなされ、馬の上におひて、くるしからぬ、景虎馬にのられ候へと被仰候間、景虎お

ほきに腹を立、略下

〔常山紀談五〕勝頼田武天目山に落行時、瀧川一益攻入て、落人ども討とり、勝頼の首をとりたれど

も、誰といふ事をしらす、小溝の中に棄けるに、略中東照宮御將机におはしませしが、勝頼の首と

聞し召、將机をおりさせ給ひ、偏にわかきゆゑ、思慮なくかくならせ候と、禮義正しく仰あり、

〔國府臺戰記〕國府臺御沒落之事

去間ニ北條殿ハ、夜半ニマギレテ淺草川ヲウチ越、オホツノ宿ハマダ夜深キニトホリスギ、敵ヲマツドノ堤ニテ、評議ノヤウコソオモシロケレ、氏綱ハ床机ニ腰ヲカケ、御休ニテマシマス、氏康ヲ始トシテ、諸侍ヲマ子キヨセ、下知セラレケルヤウハ、略下

〔伊呂波字類抄古〕兀子公卿座也

〔書言字考節用集七〕器財兀子卓子之屬

〔恒言錄五〕兀子俗儀

通鑑長編、丁謂罷相、入對於承明殿、賜坐、左右欲設墊、謂顧曰、有旨復、平章事、乃更以兀子進、常生案

錢氏私誌、賢穆有荆雍大長公主金撮角、紅藤下馬、兀子、聞國初、貴主乘馬、故有之、

〔名目抄雜物〕兀子

兀子
名稱